

## 『日本女性運動資料集成』を編集して まだ欠落を十分に埋めえていない日本の女性史

鈴木裕子

女性運動史や労働運動史に関心を持ち、勉強し始めてからほぼ四半世紀の歳月が流れた。ちょうど人生の半分の年月を重ねたことになる。1993年秋から刊行し始め、このたびやっと完成をみた『日本女性運動資料集成』全10巻別巻第1巻は、この意味でいや応もなくわたくしの人生の一区切りにもなる仕事で、ある種の感慨がわたくしを襲っている。

まずは運動の先達に対する感謝の気持ちである。若いころ先輩の運動史研究者から、運動史の研究者は、運動があつてはじめて自らの営為がある、ということをお教わった。今から考えればこれはしごく当然のことなのだが、この言葉はまずあるがままに運動史の現実に目をこらすことの重要性をわたくしに強く示唆してくれた、と思う。

そして、多くの運動の先達の方がたとの出会いがあつた。その人びとはわたくしの研究上の師であるばかりでなく、時として人生のよき師でもあつた。直接間接的にせよわたくしはその方がたの生き方から影響を受けている。

右からうかがっていただけるかと思うが、わたくしの勉強の出発点は、オーラルヒストリー、いわゆる聞きとり作業にある。どこまで聞きとれたか今から思うと心もとない感が強くするが、今となつてはもういたしかたない。わたくしが結果的にオーラルヒストリーの対象としてお話を聞きできた方がたは、社会主義運動や無産運動に身をおいた人びとが圧倒的に多い。

ところでその方がたからきちんとお聞きできなかつた空白の時代がある。「戦争」の時代である。

あの戦争中、日本の社会運動は崩壊し、いわば「総翼賛」の時代に突入していくのだが、運動者にとって生きにくいあの時代をいかに身を処したのか、あるいはまた「戦争と翼賛」の構造を支えていったのだろうか。こういうことがらに対してこちらの問題意識が希薄で、十分に踏み込むことができなかつたのが、大きな心残りとしてあつた。

不十分ながらも、『日本女性運動資料集成』の各ジャンルで「戦争」の時代を扱つたのは、右に述べたような「欠落」を認識させられていたからである。しかし、この「欠落」は十分に埋められたのだろうか。答えは否である。

わたくしは、この10年間、日本の女の一人として、女性史研究者として「従軍慰安婦」問題と向きあつてきたが、この問題を知るにつれ、女性を含めた日本人の戦争責任認識の「欠落」を思い知らされている。また女性史研究に身をおく立場の一人として、戦後日本の女性史研究が内在的な戦争責任追及を怠つてきたのではないかとの感が否めない。

「欠落」を十分に埋めることができなかつたのは、編者であるわたくしの力量不足はもとより、右に述べたような戦争責任認識や研究状況もあるのではなからうか。全巻の編集を終えてみて、そう思われてならないのである。

いま、日本の女性史研究はまぎれもなく過渡期を迎えている、と思う。乱暴な言い方を許していただければ、従来の研究では、女としての視点がしっかりと根づいていれば、それなりの時代把握ができた。しかし、今後はそうはいくまいと思われる。日本に踏みつけにされた、いやいまでも踏みにじられているアジアの人びとの民衆女性の眼差しをきちんと受け止め、彼女たちに学ぶことがなければ、21世紀に向けた女性史への展望は切り拓けまい。

アジア女性史のなかの日本女性史の再構築に遅ればせながら取り組みたいと、いま痛切に思う次第である。

参考資料：日本女性運動資料集成



■推薦

米田佐代子（山梨県立女子短期大学教授）  
上野千鶴子（東京大学文学部社会学科助教授）

住井すゑ（作家）

落合恵子（作家・女性著者の本の専門店  
ミズ・クレヨンハウス主宰）

松尾尊兌（京都橘女子大学教授）

土井たか子（衆議院議員）

金森トシエ（元・読売新聞社婦人部長、  
編集委員、前・県立かながわ女性センター館長）

高橋喜久江（日本キリスト教婦人矯風会）

もろさわようこ（女性史研究者）

加納実紀代（銃後史研究）

- |      |         |                      |
|------|---------|----------------------|
| 第1巻  | 思想・政治 1 | 女性解放思想の展開と婦人参政権運動    |
| 第2巻  | 思想・政治 2 | 婦選運動の「方向転換」          |
| 第3巻  | 思想・政治 3 | 帝国主義への抵抗運動           |
| 第4巻  | 生活・労働 1 | 女性労働者の組織化            |
| 第5巻  | 生活・労働 2 | 無産婦人運動と労働運動の昂揚       |
| 第6巻  | 生活・労働 3 | 十五年戦争と女性労働者・無産婦人運動   |
| 第7巻  | 生活・労働 4 | 生活・労働の現場での女性運動       |
| 第8巻  | 人権・廃娼 1 | 自由廃業運動と廃娼連盟の創立       |
| 第9巻  | 人権・廃娼 2 | 廃娼運動の昂揚と純潔運動への転化     |
| 第10巻 | 戦争      | 官製婦人団体による運動と戦争体制への動員 |

鈴木裕子 編・解説

A5判・上製・函入・総8,604頁

全10巻・別巻1

揃定価181,500円(揃本体165,000円+税10%)

定価各巻16,500円(本体15,000円+税10%)

'93年11月～'98年12月配本完結